

# 第17回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



高校生の部 優秀賞 受賞作品

『気の向くまま風の吹くまま、四角四面。』

東京都

千代田区立九段中等教育学校

四年 山本 楓士

気の向くまま風の吹くまま、四角四面。

千代田区立九段中等教育学校 四年  
山本 楓士（やまもと はやて）

歴史が好きだ。歴史を学ぶことで人々の心理や社会の仕組みを学べるから。読書も好きだ。曖昧な思考を言葉によって確立させられるから。

歴史と読書に共通している魅力は、情報を体系立てて、整理できることだと思う。自分が今まで生きて感じてきた矛盾や疑問点を解決できるのは、何とも言えない喜びを感じられる。日頃から数多の疑問を抱きそれに悩むのは、僕が真面目すぎるがあまり、日常の些事のほとんどを「吟味」してしまっているからだろう。「吟味」というのは偏に物事を深く考えるというわけではなく、多様な観点から捉え、自分の想いを以て分析することだ。また「吟味」に加え、もう一つの習慣がある。それは「咀嚼」、つまり納得や理解することだ。納得や理解は、概して膨大な時間と労力が掛かると共に、自己の成長に最も必要な過程だ。しかし、歪かもしれないが、その納得、「咀嚼」が非常に面倒に思う。故に、往々にしてスマホを眺めるのに夢中になってしまう。

この矛盾に何度頭を悩ませ、無味乾燥な日々を過ごしたことが。時間を無駄にしているのを自覚しつつも、昼夜問わず、スマホのガラス面に写る飽和した情報量に吞まれる。ただ、そんな日々でも、自らに息づいている真面目な青年の心持は完全に無くなってはおらず、勉強やダンスにはある程度励んでいた。

そして、中学二年生の秋、僕に大きな転機が訪れる。それは英語ディベート大会の参加である。その大会は与えられたテーマに対して肯定派と否定派の立場から英語で論じ、勝敗を決するというものだ。それまで英語は専ら好きな教科というだけで、実力を試すことに不安を覚えていた。ただ、今回ばかりは違った。挑戦しなくてはいけないと感じた。確かに、英語でのディベートは全然容易ではなくむしろ難しいものであったが、だからこそ自らにとって身になるものも多かった。弱点を見出し、計画を立てて実行する。この過程は、着実に努力を積み重ねる姿勢の大切さを教えてくれた。

この経験を経て僕は確実に変わった。「咀嚼」のための忍耐力が身に付き、「咀嚼」によって今の自分に必要な経験や知識を分析、そこから努力を重ねられるようになった。元プロ野球選手である松井秀喜さんの座右の銘に「心が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」というものがあるが、まさしく彼の言った通りであった。「運命が変わる」という表現は些か誇張しているように思えるかもしれないが、運命は習慣の積み重ねで形づくられるため、全く誤っていないと僕は思う。

仏教には「中道」という考え方があろうだ。とても奥深い、含蓄に富んだものなので簡単には説明できないが、均衡をとることの重要性を説いている。極端さがもつ誤りを見抜きそれを超越した心理に基づいた考え方や述べたほうが分かりやすいかもしれない。この教えに初めて触れたとき、僕は奇跡の出会いのように思えた。それは、「吟味」と「咀嚼」を重ねる度、常に「バランスをとるべきだ」という結論に至っていたからだ。例えば、今後どんな職に就くかについて考えなくても、目標が定まっていなくても、できるだけ多くの業種とその特徴を知ること、自らの成したい事を見出せるかもしれない。

僕は今までずっと自らのものぐさで執着しない性格に辟易してきた。しかし、そんな自分の性格のおかげで助けられることも多々あった。無理をし過ぎないことでめげずに頑張りが続けられたし、こだわり過ぎることなく冷静に判断できることもあった。つまり、僕は生真面目で面倒くさがり屋なのだ。二つの側面の一方だけに偏らない、真ん中を突き進めるところが僕の特徴であり強みなんだと、最近になってやっと気付けた。そのままでも良いんだと思えた。

僕はこれからも、気の向くまま風の吹くままに、四角四面な人生を送っていく。